

論壇

オンラインが制約を除去

政府はデジタル田園都市構想を掲げ、その実現に向けて政策を検討している。この構想に何が期待できるのか考えてみたい。

そこで比較の対象として取り上げたいのが、50年前に当時の田中角栄首相が提唱した日本列島改造論である。新幹線や高速道路網を日本中に広げて、国土の均一なる発展を目指すところからなる。その後の日本の国土計画にも大きな影響を及ぼし、日本の社会構造を動かしてきた。

日本中に交通ネットワークが張り巡らされたことで、私たちは日

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

本中どこにでも簡単に行けるようになった。全国の物産が私たちの食卓に届くようになった。大企業の工場も日本中に広がっていくことになる。さまざまな問題を抱えながらも日本列島改造論が戦後日本の経済発展に貢献してきたことは確かだろう。

地方の不安」というのは1988年に出版された自民党幹事長の茂木敏充氏著作のタイトルだが、日本列島改造論がもたらした一極集中の問題点を表している。

いまデジタル田園構想が多くの人の共感を得られるようになっていく。デジタル田園構想が多くの人の共感を得られるようになっていく。デジタル田園構想が多くの人の共感を得られるようになっていく。

デジタル田園都市構想への期待

ただ、現在の私たちの視点から見ると、日本列島改造論の問題点も多く見える。日本中がつながることで、全ての経済活動が東京に一極集中することになる。多くの若者が東京に集まり、主要な経済活動もその多くが東京に集まることになる。地域経済では過疎化が進んでいる。「都市の不満、東京だけでなく世界中とリアルタ

地域のあるべき姿再構築

私たちの経済社会がよりよく機能するためには、分散と集中のバランスが必要となる。過密を避け快適な生活環境を維持するためには、適度な人口の分散が必要となる。

人口過密で劣悪な生活環境にある東京は、生活の場としては好ましくない点が多い。ただ、社会が高度化すれば情報の集中も必要となる。最高の情報の多くは大都市に集まり、音楽などの芸術でも大都市で広がる。大都市の方がよりよい教育機会に恵まれることが多い。

ただ、デジタル社会が進化すれば、距離の壁を越えられる。最高の教育はオンラインでも受けられるし、音楽や映像などもオンラインで伝えられる部分も多い。もちろん全てオンラインでというわけにはいかないが、オンラインをうまく活用することで、実際に大都市に出かけていく回数を限定することができるといえる。

デジタル技術を利用して大都市部との間でさまざまな情報のやりとりができるようになるという前提で、地域のあるべき姿を再構築する。これがデジタル田園都市の考え方の基本であると思う。デジタルでどのようにつながるのかという点と、それを前提に地域での働き方や学び方をどう高度化していくのかが問われる。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。